

令和2年度 第1回島根県企業局経営計画評価委員会 意見集約

1. 令和元年度 各事業の実績について

【委員】

水力発電の供給実績を見ますと目標にはほぼ近い実績ですが、太陽光発電については目標を遙かに越えています。この要因を教えてください。

【回答】

水力発電については、暖冬により降水量に恵まれず目標を若干下回りましたが、太陽光発電については、天候に恵まれたことや大きな故障等もなく目標を上回ることが出来ました。

【委員】

風力発電所の故障については、コロナの影響もあり修理が長びいたようですが故障は何基ですか？また常に強風が吹きそれで止まっていると思っていたのですが冬期は、弱風だったのでしょうか。

【回答】

高野山風力発電所の5号機及び7号機の2基が乱流の影響によりブレード（羽根）が損傷したため、長期停止となりました。また、冬季の風が昨年より2割程度弱かったため、目標を下回る結果となりました。

【委員】

電気事業については、FIT活用による太陽光発電事業が目標を上回る成果となり、この状況を今後も持続されたい。一方、風力発電については隠岐大峯山発電所が売却により、事業採算面の改善を期待します。

工業用水道事業は江津地域拠点工業団地への企業誘致が奏功し、売水率も計画を上回る良好な成果となっており、今後も更なる分譲・誘致に尽力いただきたい。

【回答】

太陽光については、運転開始以降、安定した発電をしていますので、引き続き適切な維持管理に努めていきます。風力発電は隠岐大峯山風力発電所が民間企業へ売却となり、高野山のみとなりましたが、引き続き適切な維持管理に努めてまいります。採算面についても、高野山風力発電所はもともと収支が黒字ですので、赤字の大峯山風力発電所譲渡により、更なる改善を見込んでいます。また工業用水については、引き続き地元市及び県商工労働部と連携協力しながら企業誘致を図り、売水率の向上に努めていきます。

【委員】

・工業用水道事業会計

企業局経営計画（P.4）では、売水先の数（飯梨川）が目標達成年度までに4社増とされていますが、現在28社で2社減となっていますので、引き続き売却先の確保に努めていただきたい思います。

【回答】

新型コロナの影響による経済活動の低下など工業用水事業を取り巻く環境は厳しさを増していますが、引き続き新規需要の開拓に向けて営業活動に取り組み、工業用水売水先の確保に努めていきます。

・水道事業会計

島根県水道用水供給事業の売水率について、飯梨川、斐伊川水道に対して江の川水道用水供給事業は45.7%と低い。これについて今後どのように考えておられるか伺います。

【回答】

人口減少や節水型機器の普及により、需要の伸びによる売水率の向上は難しいですが、今後の需要見通しを踏まえて一部施設についてはダウンサイジングを行うなど、施設規模の見直しを進めていきます。

【委員】

概ね各事業所共に順調に運営されているが、水道事業が各水系とも売水率が低迷しているのが気になる。特に江の川水道用水供給事業の売水率は半分以下であり、江津市の水道料金の高さの原因となっている。水道料金の設定は利用人口に左右されるため、企業局だけの努力では限界があるが有収水量の増大に向けて地元江津市との連携を期待する。

【回答】

江の川水道用水供給事業では、年に1回、「局部課長会議」を開催し、受水団体（江津市、大田市）と情報共有・意見交換を行うほか、必要に応じて随時個別の意見交換も行っております。今後もそのような場を通じて、ご指摘の点を含め、さまざまな課題の解決に向け協議を進めてまいります。なお、同様な会議は、島根県水道用水供給事業（飯梨川、斐伊川）でも行っているところで

2. 令和元年度 各事業会計決算の概要について

【委員】

風力の電力を見ますと、水力の電力を追い上げて来そうな数字ですが、増減理由は確かに強風に依る故障等が上げられると思います。その反面、太陽光発電は固定設置ですので故障はないですが、天候に左右されると思います。

【回答】

高野山風力発電は、ブレード（羽根）の修理もあり、長期停止となりました。太陽光発電については天候に恵まれ順調に運転しています。今後とも、健全な経営ができるよう引き続き適切な運転に努めていきます。

【委員】

リニューアル工事による減収等止むを得ない事情はあるものの、引き続き増収と経費削減につながる運営管理に努められたい。

【回答】

職員一人ひとりがコスト意識をこれまで以上に持ちながら、稼働中発電所の効率的な運転、故障復旧時間の短縮、費用の縮減等に取り組み、リニューアル工事による減収減益幅の圧縮に努めていきます。

【委員】

電気事業は主力となる水力が更新工事に伴う運転停止で減収減益となったが、工業用水、水道事業は単年度黒字を確保した。累積欠損を抱える工業用水事業については、引き続き累欠縮小に向けて取り組んでほしい。宅地造成については江島は完売でストックがなくなったが、江津の令和元年度分譲実績がなかったことが気になる。

【回答】

工業用水道事業については、「施設管理基本計画」や「中期事業計画」に基づき、施設の更新時期の平準化や施設規模の見直し等により事業費の圧縮を図るとともに、工業用水のPRや用水型企業の誘致に努め、契約水量の増加を図っていきます。

また、江津地域拠点工業団地については、令和元年度分譲実績はありませんでしたが、現在商談を進めている区画や引き合いがある区画がありますので、引き続き地元市及び県商工労働部と連携しながら分譲促進に努めていきます。

3. 企業局経営計画 令和元年度の取組状況について

【委員】

概ね計画通りの事業進捗となっている。留意点としては近年大雨による洪水被害が島根県内でも発生しており、多目的ダムの事前放流の在り方が議論されている。渇水リスクを抑えつつどう洪水を防ぐか、国交省など関係各機関とよく調整してほしい。

【委員】

水道事業におけるダムの運営管理については、近年の豪雨、洪水被害などの観点から、治水ダムはもとより、利水ダムによる事前放流の必要性も高まっており、発電・取水・渇水対策などの視点も総合的に判断したうえでの対応を進めるよう検討されたい。

【回答】

平成30年7月豪雨を踏まえ、事前放流によるダム下流域の住民の生命・財産の保全に協力することは極めて重要であると考えています。一方、事前放流で水不足に陥るリスクはきわめて低く、水道や工業用水及び電力の安定供給に支障がないとの判断から、受水団体の理解を得たうえで河川管理者と「治水協定」を締結し、昨年7月から今年8月にかけて企業局が利水者として関わる5つのダムで「事前放流」の運用を開始したところです。

今後とも、この運用について受水団体の理解を得つつ、国や県河川課と調整を図りながら適切に対応してまいります。

【委員】

企業局の担当かどうかわかりませんが、江の川の活用に際して、災害をくり返す江の川の氾濫については、治水対策は、進んでいるのでしょうか。

貴局からもプッシュしていただけるようお願いしたいです。

また、高野山風力ブレード修理の海外技術者とは、どこの国の方ですか。

それから修理や点検の地元業者の活用拡大については良いことだと思います。

【回答】

江の川の治水対策につきましては、一級河川を管理する国（国土交通省）において取り組まれているところですが、島根県としては、予算の大幅な増額と事業の推進を国へ強く求めているところです。

なお、企業局では、水害などで水道の断水などが生じた際、県民への応急給水に迅速に対応するため、本年3月に給水車を江津浄水場（西部事務所）へ配備しており、今後も災害に備えた体制を整えてまいります。

また、海外技術者につきましては、江津高野山風力発電所の製造メーカーであるドイツのノルデックス社（Nordex）からの派遣により、ブレードの修繕工事を行ったものです。現在も海外技術者の渡航は制限されていることから、地元業者の活用や、海外製部品を国内部品に置き換えるなど、早期の故障復旧に努めてまいります。

【委員】

飯梨川都市用水道事業50周年記念式典に合わせて東部事務所視察見学に参加し、滅多に見学する機会がない私達にとっては良い見学でした。

【回答】

企業局としても、事業内容や経営計画の取り組みについて広く県民の皆様を知っていただくよう施設見学など今後もPRに努めていきます。

4. 水力発電所リニューアル事業・水力発電所新規発電開発事業の進捗状況について

【委員】

事業スケジュールを見ると三隅川、飯梨第三等は長期に渡りリニューアルされて行く予定となっておりますが最新の設備を投入し電力供給に反映してほしいです。

【委員】

老朽化した施設のリニューアル工事の実施については、水の力を最大限生かすことに繋がり良い事だと思います。

【回答】

水力発電所につきましては、FIT制度の動向を踏まえつつ、可能な限りリニューアルを実施してまいります。

【委員】

計画は順調に進捗しているが、労災事故等を起こさないよう十分に安全に配慮した工事の進捗管理に努められたい。

【回答】

リニューアル工事の安全対策につきましては、工事受注者はもちろんのこと、発注者である企業局におきましても、同一現場の工事間調整や現場点検等を積極的に実施し、労災事故ゼロを目指してまいります。

【委員】

これまでのところ順調に進んでいるが、FIT制度がなくなった後の事業の財源は確保できるのか不安がある。

【回答】

令和4年4月1日から、現在のFIT制度に加え、市場連動型のFIP（Feed-In-Premium）制度を導入するよう国で検討が進められています。詳細な制度設計がこれから始まりますので、動向を注視しながら新たな事業の模索を行ってまいります。

5. 江津地域拠点工業団地における宅地造成事業の進捗状況について

【委員】

江島が完売してストックがなくなっているため、新たな企業進出の受け皿として江津を拡張する意義は認める。しかし令和元年度中に新たな誘致実績はなく、コロナ禍の中で今後の企業の設備投資は不透明感が強い。経済動向にもしっかり目配りしていく必要がある。

【回答】

第二期造成事業で工事中の3つの区画（B、F、G区画）のうち、2つの区画（B、F区画）が今年度末完成予定となっています。コロナ禍の中で企業誘致への影響が懸念される場所ですが、江津地域拠点工業団地は山陰道福光浅利道路の事業化によって工業団地としての魅力の向上が見込まれることから、より一層、地元市及び県商工労働部と連携を図りながら分譲促進に努めていきます。

6. 広報・PR事業について

【委員】

本年の植樹企画はコロナ拡大防止のため、中止のため参加できませんでしたが令和3年4月の広瀬比田地区での植樹時には上流の水質汚染度など調べてみたいと思っています。

【回答】

企業局の森づくり事業については、受託団体をお願いしてコロナウイルス感染予防対策をとりながら、進めていきたいと考えています。

【委員】

ホームページのアクセス数、見学会、増加してうれしく思います。

見学会は、コロナ対策など大変かと思いますが、今後も実施できるといいと思います。

【回答】

見学会については、コロナ禍の状況ではありますが、感染予防対策を講じながら実施してまいります。

【委員】

以前に比較すると、県民にとっての局の存在感やわかりやすさ、親しみやすさは格段に向上しています。新型コロナ禍で活動しづらいなかですが、引き続き尽力いただきたい。

【回答】

今後も地域住民に対して、企業局事業に関心を持っていただくようPR活動に努めてまいります。また施設見学については、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら行っていきます。

【委員】

やすぎ環境フェアにて「利き水大会」の企画は、面白いと思いました。

県民に、美味しい水が飲めるありがたさ、24時間見守って下さってる方のおかげで、安心して使えるということを広く理解していただけるような広報を工夫して発信して行って下さい。

【回答】

今後もこのような機会を利用して、地域住民に対して企業局事業に関心を持っていただくよう工夫をしながらPR活動に努めてまいります。

【委員】

個別のアウトリーチ型広報していろいろ取り組んでいるが、県企業局がどんな事をしているのか、ほとんどの県民は知らないのが実情ではないか。企業局は水道にしても電力にしても県民にとっては直接の供給者ではないため、姿が見えにくい。例えば消費者にとって直接買い物をする小売店ではなく卸売業的な存在である。企業局の存在を知ってもらうためには、テレビ・新聞など直接の広告媒体を活用すべきではないか。

【回答】

配付資料には記載していませんでしたが、企業局が行う事業や再エネ見学ツアーについて、テレビ放映や新聞への掲載も行っております。今後も引き続き広告媒体を活用したPRに努めてまいります。

(テレビ放映・新聞掲載の実績)

T S K 「なるほど！吉田くんのしまねゼミ」 「地域資源でやさしい電気」 H30.10.29放映

T S K 「なるほど！吉田くんのしまねゼミ」 「暮らしと産業を支える公営企業」 R1.5.27放映

山陰中央新報 「島根県からのお知らせ」再エネツアー募集についてH.30.6.21掲載

建設興業タイムス 「再エネツアー（夏休み編）募集」 R.1.7.20掲載

【委員】

パンフレットはどの様なところに、どのくらい、PR、配布されましたか？

また残りなどは、どのくらいありますか？

そしてPRの反響はどんなでしたか？教えてください。

【回答】

企業局パンフレット「企業局ガイド」は、施設見学者や工業用水の新規需要開拓の企業訪問などでこれまでに400部配布しており、残りは600部です。

また、江津地域拠点工業団地PRパンフレットは、毎年開催される企業立地セミナー（県企業誘致対策協議会主催）や地元市並びに県企商工労働部が誘致活動で企業訪問する際に使用してもらっており、配布先の企業からはパンフレットのQRコードからAR（拡張現実）やYouTube動画が再生ができることやデザインについて好評をいただいております。配布先は、企業立地セミナーで400部、企業誘致活動を行う江津市へ100部、県商工労働部へ200部、県東京事務所へ100部で、現在の残りは200部程度です。

7. 隠岐大峯山風力発電所民間譲渡について

【委員】

場所が離れていることで、緊急時には大変だと思うので、譲渡されるのは良いと思います。

【委員】

問題を抱えていた発電所ただけに、今後の経費削減につながることを期待されます。これまでのトラブル対処に際し、蓄積してきた経験を譲渡先企業にも是非引き継いでいただきたい。

【回答】

隠岐大峯山風力発電所については離島での管理の難しさを実感したところですが、ここで得られた知見を江津高野山風力発電所に活かすことが出来たので、隠岐での風力発電事業を行った意義はあったと考えています。

譲渡先企業には大峯山風力発電所の維持管理で蓄えた経験やノウハウを引き継いでいきます。

また、この民間企業は今回譲渡した1, 2号機に加え、新しく大型風車を建設し一元管理をされますので、新風車の管理にも役立つものと考えております。

【委員】

累積欠損やFIT終了に伴う今後の収支見通しを考慮すると民間譲渡はやむを得ないが、譲渡価格次第では、県民資産を毀損しかねない。譲渡価格に注目する。

【回答】

譲渡価格は20,123,400円（税込）です。残存資産額と施設撤去費用を考慮した額であり、妥当な金額だと考えております。

8. 給水車の配備について

【委員】

今後、災害対応はもとより、水道管路の老朽化にともなう漏水トラブルなどで断水の発生頻度が増加することも予想され、引き続き緊急対応の体制充実に取組まれたい。

【委員】

災害対応として適切な配置。市町村と連携して有効活用してほしい。

【委員】

とても良い事と思います。

必要がない事を願いますが、必要になった時は、大変助けられると思います。

【委員】

災害時等、給水車の活動により被災された方々への飲料水の提供は、何にも代え難い本当に貴重な水であると思います。

【回答】

今後の活用方法としては、給水支援が必要な被災地へ、職員を給水車とともに派遣するほか、給水車が配備されていない県内の市町村からの要請により、給水車を貸し出すことも想定しており、災害時には大きな貢献ができるものと考えております。

9. その他、ご意見・ご質問、お気づきの点がございましたらご記入ください。

【委員】

揖屋の干拓農場（畑）には飯梨川から工業用水が送水されているのでしょうか。

【回答】

揖屋の干拓農場（畑）への飯梨川工業用水の送水はしておりませんが、隣接する東出雲工業団地では、7社1組合の企業等で工業用水を利用いただいております。

【委員】

企業局経営計画について

水道事業の建設改良費について施設の老朽化の状況、今後の更新経費等、計画をローリングした最新値について伺いたいです。また、建設改良の計画等を策定される際は、各受水団体と協議のうえ策定していただきたいです。

【回答】

計画のローリング値については、今年度、経営計画の中間見直しをすることになっており、その中で最新値をお示ししていきます。

また、水道事業の建設改良工事は、「施設管理基本計画」及び「中期事業計画」を策定し行うこととしており、それぞれの計画策定過程においては、事前に受水団体と協議を行いながら策定しているところです。

【委員】

各事業所とも今後人口減に伴う需要の縮小が見込まれる。そのため事業遂行に当たって効率化が求められる。その場合、民間経営の規律を踏まえながら外部の視点も経営管理に取り入れるべきである。そのために当評価委員会の機能拡充も選択肢のひとつ。

【回答】

今後とも、ご提案をいただいたことも含めて経営評価委員会のご意見を伺いながら、事業遂行の効率化に努めてまいります。